

Second Chance



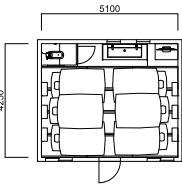
仁平昂太
建築設計計画 | 研究室



zone I

Concept: 矯正

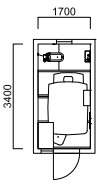
従来の刑務所と同様に、**徹底的に管理、監視**され、正しい価値観へ促す指導、矯正が行われる。



zone II

Concept: 自己理解

Zone II の受刑者は、初めてプライベート空間が与えられ、徐々に自由を感じ始める。また、美術館へ納入する美術品の創作を通じ、**自身の存在意義やアイデンティティ**を見出し、理解する。



zone III

Concept: 他人理解

Zone III の受刑者は、最も社会に近い生活を送ることができる。広場や、個室中央のウッドデッキ部分で、**受刑者同士による様々なアクティビティ**が生まれる計画とした。

□コンセプト

罪人は人生をやり直すことはできないのであろうか。現在、日本の再犯率は49.1%と、約半数の受刑者が刑務所へ再び入所しているという現状がある。

このプロジェクトでは、人の快適さや感情を司る建築の力によって、彼らが更生を果たし、新たに人生をリスタートできる刑務所を設計する。

□プログラム

この刑務所では、受刑者の更生度によって zone I ~ III へと生活エリアと質が変化していく。

その変化は、居室の大きさから天井の高さ、定員人数、植栽、道、色に至るまで明らかな違いがある。これは受刑者に更生することによる喜びを無意識的に感じさせることを目的としている。

□デザイン

zone III へ近づくにつれて、道は直角から曲線へと変化し、壁面においても色を加えられていく。

居室では天井高は高く、面積は大きくなるとともに、居室のタイプ等が多様化していく。

このように、更生していく受刑者が、多様化する社会へ近づくことを実感するデザインとした。



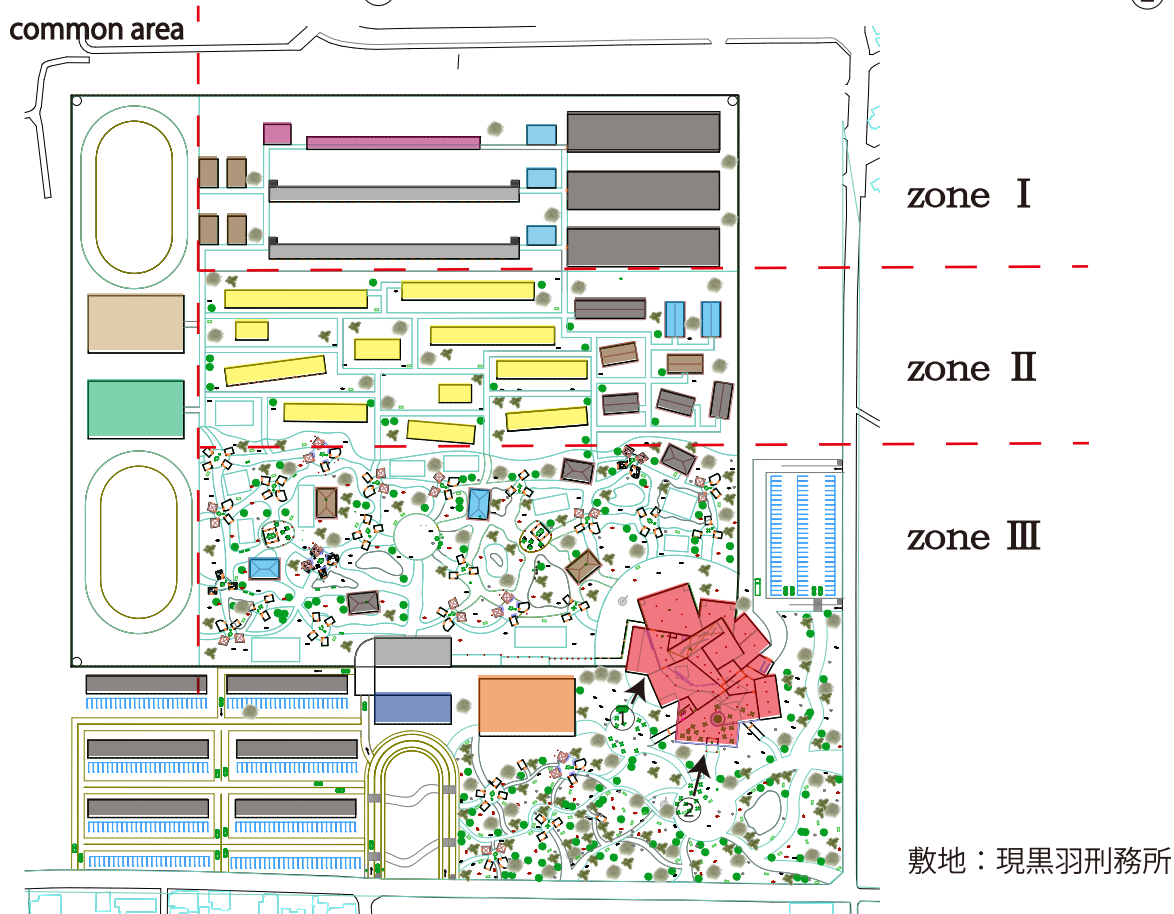


①



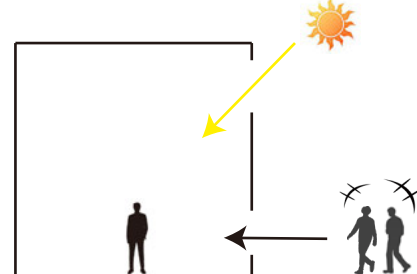
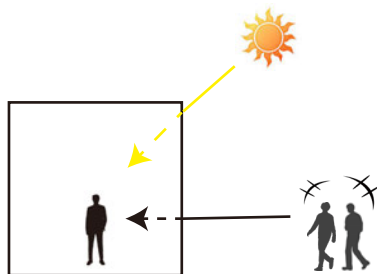
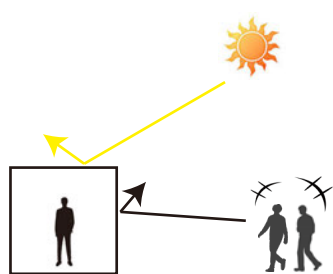
②

- 病棟、医務棟
- 創作室
- zone I 住棟
- 浴室
- 工場
- 体育館
- 講堂
- zone II 住棟
- 官舎
- 矯正管理棟
- 庁舎棟
- 美術館



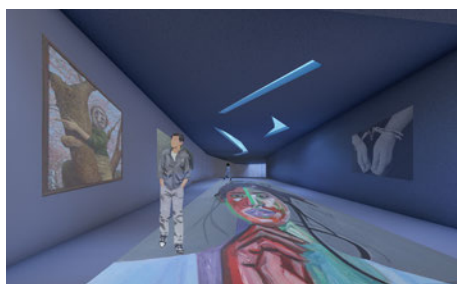
刑務所美術館

この刑務所は受刑者の創作脳を刺激すること、**アイデンティティを表現すること**を目的とした美術館がある。この美術館は地域理解を目的とした刑務所の文化祭と称される矯正展の際に**一般に公開**されるという唯一無二の特徴がある。展示室は社会へ近づくにつれて空間が大きくなり、光が多く取り入れられ、社会の音が聞こえる空間へと徐々に変化していく。



zone I 受刑者作品展示エリア

天井が低く、暗い空間により徹底的に**管理、監視**される状況下を演出。



zone II 受刑者作品展示エリア

徐々に空間が明るく、大きくなり、受刑者の**希望や、自由、更生への欲**を感じるような空間を演出した。



zone III 受刑者作品展示エリア

最も開放的な空間で、社会へのつながりや希望、期待感を感じる空間を目指した。